

令和5年度 事務事業評価表（ 令和4年度実績 ）

事務事業名		かのゆめ花推進事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	3 地域づくり			事業期間	令和2年度 ～ 令和4年度			
	基本施策	1 地域コミュニティの活性化			会計種別				
	推進施策	1 地域の夢プランの推進			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	地域住民、来庁者、職員							
	意図	市民活動や地域福祉拠点であるコアプラザかのの周辺に地域住民が環境整備を行うことにより、拠点に対する意識づけや地域の景観形成、また、市民活動意識やおもてなしの心の醸成を図る。							
	成果	市民活動や福祉拠点としての意識が高まった。 草刈り作業が軽減し、地域の景観形成が図られる。 地域の夢プランが実現し、市民活動への参画意識やおもてなしの心が醸成された。							
	手段	市民活動や地域福祉拠点であるコアプラザかのの周辺に地域住民が芝桜を植栽し環境整備を行う。							
指標	活動指標	指標名			単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		芝桜植栽面積		目標値	m	360	360	400	0
				実績値	m	360	427	333	-
				目標達成度	%	100.0	118.6	83.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		0	3,282	3,261	1,501	0		
	事業費		0	420	420	420	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	209	209	209	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	69	69	69	0		
		一般財源	0	142	142	142	0		
	人件費合計		0	2,862	2,841	1,081	0		
	正職員		0	2,862	2,841	1,081	0		
	正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.40	0.40	0.15	0.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	児童生徒の減少により学校周辺の環境整備が滞中、明るく元気な鹿野をつくる会の夢プランが令和元年度に策定され、地域で学校サポートの機運が高まった。								
	現状の周辺環境								
	夢プランの活動をきっかけに、地域と学校の連携による環境整備が始まった。								
評価	今後の予想される周辺環境								
	地域住民が一体となった学校周辺の環境整備が図られ、市民活動の活発化と地域の景観形成が図られる。								
	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	事業の目的に則った対象、意図である。				
2. 事務事業の目的（対象・意図）		A							
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況		A	多くの住民に参画いただいたが、イベント時のみならず関わる体制作りが必要である。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		A						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	地域の夢プランの実現でもあるため、地域住民と計画について協議する場が必要である。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		B						
総合評価	D	地域拠点であるコアプラザかのや学校周辺の環境整備を行い、市民活動の活発化や地域の景観形成等を図ることができた。							
改革案	今後の実施方向性	廃止・休止							
	成果方向性	成果縮小							
	コスト方向性	コスト削減							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		コアプラザかの管理運営事業費			担当所属	鹿) 地域政策課				
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～					
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別						
	推進施策	1 生涯学習推進体制の充実		実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民								
	意図	コアプラザかの適切な維持管理を行いながら、利用者の増大を図る。								
	成果	住民が主体的で活発な活動ができる環境づくりが進められた。								
	手段	快適な地域の拠点施設となるよう、適切な維持管理に努める。								
指標	活動指標	指標名			単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		利用者数		目標値	人	31440	22000	22000	22000	
				実績値	人	8283	11450	11913	-	
				目標達成度	%	26.3	52.0	54.2	-	
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算			
	トータルコスト		18,111	20,547	21,911	21,502	21,309			
	事業費		14,117	14,107	15,518	17,899	18,787			
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0			
		県支出金	0	0	0	0	0			
		地方債	0	0	0	0	0			
		受益者負担	261	167	147	132	202			
		その他	122	116	1,824	2,192	2,480			
	一般財源		13,734	13,824	13,547	15,575	16,105			
	人件費合計		3,994	6,440	6,393	3,603	2,522			
	正職員		3,994	6,440	6,393	3,603	2,522			
	正職員以外		0	0	0	1,622	1,722			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(1,622)	(1,722)				
人員	正職員 (人)	0.55	0.90	0.90	0.50	0.35				
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.20	0.10				
環境変化等	開始時の周辺環境									
	平成21年2月の供用開始から医療、福祉、保健、生涯学習の拠点施設として、地域住民にも認知されてきた。また、イベント会場として利用されることもあり、親しみやすい施設となっている。									
	現状の周辺環境									
	地域の拠点施設として、適正な維持管理に努めているが、コロナ禍で休館や会議等が中止となり利用者が激減している。									
評価	今後の予想される周辺環境									
	利用者の固定化から新規利用者を増やすため、また、コロナ禍の対応のため、オンラインの活用など新たな試みや新規教室の取組みが望まれる。施設の老朽化に伴い、今後、更新費用が必要となる。									
	妥当性	評価項目		評価	評価の理由					
		1. 市の関与（税金支出）		A	事業の目的に則った対象、意図である。					
2. 事務事業の目的（対象・意図）		A								
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A								
有効性	4. 計画の実施状況		A	地域の拠点施設となるよう、施設の提供及び適正な維持管理を実施した。						
	5. 目標（活動指標等）の達成度		C							
	6. 上位施策への貢献度		B							
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B							
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	快適な地域の拠点施設となるよう、引き続き、適正な維持管理に努める。						
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B							
	10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B	コロナ禍で会議等の中止が多く、利用が少なかったため、目標を下回った。								
改革案	今後の実施方向性	維持	利用率向上のため、各種団体や個人と連携し、体験会の実施や教室などの開催に努め、周知を図っていく。							
	成果方向性	成果維持								
	コスト方向性	コスト維持								
	改革効果（どのような効果が期待できるか）									
施設の利用者が増える。										

令和5年度 事務事業評価表（ 令和4年度実績 ）

事務事業名				鹿野総合支所管理運営事業費		担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	7 生活基盤			事業期間	～				
	基本施策	3 都市拠点等の形成			会計種別					
	推進施策	2 地域都市拠点や生活拠点の維持			実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民								
	意図	鹿野総合支所の適切な維持管理を行う。								
	成果	住民にとって訪れやすくて利用しやすい行政窓口が運営された。								
	手段	鹿野総合支所庁舎の適切な維持管理。								
指標	活動指標	指標名			単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		庁舎業務委託件数		目標値	件	9	9	10	10	
				実績値	件	9	9	9	-	
				目標達成度	%	100.0	100.0	90.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算			
	トータルコスト		17,268	21,370	18,668	18,771	20,355			
	事業費		15,816	19,939	17,247	16,969	18,193			
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0			
		県支出金	0	0	0	0	0			
		地方債	0	0	0	0	0			
		受益者負担	64	65	65	65	63			
		その他	970	992	963	1,076	963			
	一般財源		14,782	18,882	16,219	15,828	17,167			
	人件費合計		1,452	1,431	1,421	1,802	2,162			
	正職員		1,452	1,431	1,421	1,802	2,162			
	正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
人員	正職員 (人)	0.20	0.20	0.20	0.25	0.30				
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
環境変化等	開始時の周辺環境									
	合併後、旧役場庁舎を総合支所として使用している。遊休スペースを金融機関等に賃貸し、また、総合支所としての事務所を1階に集約して住民の利便性と施設管理の効率性を高めている。									
	現状の周辺環境									
	建築後50年以上経過することから、老朽化が著しく進んでいる状況である。									
	今後の予想される周辺環境									
	新たな庁舎は、令和6年度中に供用開始予定である。									
評価	評価項目		評価	評価の理由						
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A	住民サービスの向上に向け、適正な維持管理を実施した。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A						
		6. 上位施策への貢献度		A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		C						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		C	老朽化が著しく、修繕費が高んでいる。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B						
10. これまでの実施手段		C								
総合評価	B	施設の老朽化が著しく新庁舎完成までに一定の修繕費は必要と思われる。								
改革案	今後の実施方向性	維持	老朽化した施設であるが、新庁舎完成まで委託業務の見直しや光熱水費のエネルギー削減など経費節減に努め、適正に維持管理していく。							
	成果方向性	成果維持								
	コスト方向性	コスト維持								
	改革効果（どのような効果が期待できるか）									
適正な維持管理を行うことで、地域住民に安心・安全を提供することができる。										

令和5年度 事務事業評価表（ 令和4年度実績 ）

事務事業名				鹿野総合支所整備事業費		担当所属		鹿) 地域政策課		
基本情報	分野	9 都市経営			事業期間	令和4年度 ～ 令和6年度				
	基本施策	3 効率的かつ効果的な行政マネジメントの推進			会計種別					
	推進施策	5 公共施設等のマネジメントの推進			実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民								
	意図	老朽化した鹿野総合支所を新築整備する。								
	成果	住民の安心・安全度が増し、効率的な行政運営が図られる。								
	手段	関係課と連携して迅速な進捗に努める。								
指標	活動指標	指標名			単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		進捗率		目標値	%	0	2	15.8	76.4	
				実績値	%	0	2	15.8	-	
				目標達成度	%	-	100.0	100.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算			
	トータルコスト		0	0	19,372	90,046	102,086			
	事業費		0	0	15,820	86,443	98,483			
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0			
		県支出金	0	0	0	0	0			
		地方債	0	0	2,800	41,600	40,700			
		受益者負担	0	0	0	0	0			
		その他	0	0	13,000	42,000	44,200			
	一般財源		0	0	20	2,843	13,583			
	人件費合計		0	0	3,552	3,603	3,603			
	正職員		0	0	3,552	3,603	3,603			
	正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.50	0.50	0.50				
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
環境変化等	開始時の周辺環境									
	住民の安心・安全な拠点施設を提供するため、老朽化した鹿野総合支所を計画的に建替えをしていくことが必要となる。 建替えを実施するため、令和3年度より事業開始した。									
	現状の周辺環境									
	令和3年度から、鹿野総合支所建替えに伴う、各種調査や設計業務造成工事を実施した。 令和5年度から鹿野総合支所の建替えを実施する。									
評価	今後の予想される周辺環境									
	教育行政ゾーンの機能向上が図られ、地域住民の活性化につながる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由						
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A	令和4年度に予定していた事業は、概ね完了した。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A						
		6. 上位施策への貢献度		A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A						
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
10. これまでの実施手段		A								
総合評価	A	効率的かつ効果的な行政マネジメントに向けて着実に進んでいる。								
改革案	今後の実施方向性	維持								
	成果方向性	成果維持								
	コスト方向性	コスト維持								
	改革効果（どのような効果が期待できるか）									

令和5年度 事務事業評価表（ 令和4年度実績 ）

事務事業名			鹿野地域観光交流推進事業費			担当所属	鹿) 地域政策課		
基本情報	分野	6 産業・観光			事業期間	～			
	基本施策	5 観光交流の推進			会計種別				
	推進施策	1 ニューツーリズムの推進			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	地域住民、来客者（交流人口）							
	意図	周南市まちづくり総合計画後期基本計画にある「持続可能な中山間地域づくりプロジェクト」の具体的な推進策として、観光を軸としたソフト面の基盤づくりや景観整備を進めることにより、関係人口の拡大や自立した過疎地域を目指す。							
	成果	交流人口や関係人口を拡大することで、地域経済の活性化を図り、持続可能な地域を実現する。							
	手段	観光マップの作成や特産品開発など、ソフト面の支援を行う。 街灯リニューアルに対する支援を行う。							
指標	活動指標	指標名			単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		会議等の開催日数（交流人口の増加を図るための地域住民との勉強会及び連携イベントの開催回数）		目標値	回	0	0	12	12
				実績値	回	0	0	12	-
				目標達成度	%	-	-	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		0	0	0	9,687	3,950		
	事業費		0	0	0	6,805	1,068		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	6,000	1,000		
	一般財源		0	0	0	805	68		
	人件費合計		0	0	0	2,882	2,882		
	正職員		0	0	0	2,882	2,882		
	正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.40	0.40			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	令和3年2月、鹿野総合支所整備方針説明会において、総合支所跡地を観光交流拠点として整備していくこととなり、これを契機に、鹿野地域の観光振興のコンセプトを示し、今後の施策の方向性や観光交流拠点のあるべき姿を描くため、「鹿野地域観光振興プラン」を令和4年3月に策定した。								
	現状の周辺環境								
	地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの具現化を図り、鹿野地域が持つ豊かな自然や歴史・伝統・文化などを最大限活かした観光振興や持続可能な地域社会の実現を目指すため、地域の担い手となる若者で組織する団体が発足され、観光マップの作成、特産品の開発等を行った。								
	今後の予想される周辺環境								
	自立・持続可能な中山間地域（鹿野地域）の実現につながる。 交流人口の増加に伴い、若者等が新たに飲食業などを起業することが、地域の活性化につながる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	B	事業の目的に則った対象、意図である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A						
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A						
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	新たに団体組織が発足し、地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの実現に向けた活動により、一定の成果がでている。引き続き、地域の夢プランや鹿野地域観光振興プランの実現のため、支援をしていく。							
改革案	今後の実施方向性	維持							
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								